



ましきな

校是：向学 誠実 開拓
 与論町立那間小学校
 TEL 0997-97-2278
 FAX 0997-97-4950



「梅雨空に 響く元気な 朝の声」

那間小学校 校長 有留雄一郎

今年の梅雨は長く、5月に梅雨入りしてからずっと雨が続く。校庭や体育館前の駐車場はまるで田圃のよう。せっかく畑に植えた野菜の苗もはねた泥やカタツムリにやられ、種から育てた花の苗もカビが生え、学校緑化にも大きな影響を及ぼしている。元気なのは雑草だけ。これだけ雨がが多いのにもかかわらず、水無月といわれる。水無月の「無」は「の」を意味する助詞の「な」であり「水の月」を意味するらしい。

水に関する諺に「水は方円の器にしたがう」がある。ID野球で有名な故野村克也さんがよく口にしていたらしい。「方」は四角、「円」は丸を意味する。水は四角い器に入れると四角い形になり、丸い器に入れると水も丸い形になる。水はその入れ物の形にしたがうということで、辞書には「人は環境によって悪くなれば良くなるたとえ」と書かれている。私の先輩はこの諺を「地球を生き物あふれる環境にした『水』というものは、柔軟な物の典型として、その形にしたがって形を変えて寄り添う、つまり、心の柔らかさを表す言葉だ。水の月こそ、柔らかでしなやかな心を持ちたい」とも解釈している。私も同感である。

このよううっとうしい日々の中、子どもたちは関係なく元気である。朝出勤すると東門、西門どちらからも元気な「お願いします。」と元気な声が響く。1年生も上級生に負けず、しっかりあいさつや門礼をしている。朝の立哨指導日誌には「子どもたちのあいさつが気持ちいいです。」というコメントが毎日綴られている。これも那間小学校という形であり、よい環境の一つである。良いお手本を見て、それに従う1年生。5月のゴールデンウィーク明けに泣きながら登校していた子も、もうすっかり立派な那間小の子どもになっている。

なぜここまで「あいさつ」にこだわるのか。昨年度の「ましきな」10月号に中学校在籍時代のことを書いた。3年間という期間限定の小中交流研修のなかで、1年目から大変厳しい洗礼を受けた大荒れの現場。返事やあいさつがまともにできず、不良行為の絶えない中学校。もちろん真面目な生徒もいたのだが…。「なんとかできないのか」学校では毎日遅くまで生徒指導部会が行われた。一方で荒れた中学生を相手に同僚と一緒に格闘した記憶が懐かしい。

自分は陸上部の顧問だったため大会のたびに強いチームを観察するようにした。そして県大会連続優勝している強豪校へ合同練習を依頼したり、鹿児島実業陸上競技部の監督である上岡先生(引退されたが)をお願いして、当時の中学生を練習に参加させたりもした。その中学生たちが鮮烈に感じたのは、競技以前の姿勢「あいさつ」だった。練習場に入る前のあいさつ。先生方や保護者へのあいさつ。先輩たちへのあいさつ。大会後の感謝のあいさつ。様々なあいさつの大切さに気付いて帰ってきた。その後、この生徒たちがその貴重な体験を陸上部に広げ、チームがまとまっていた。それは陸上部だけでなく、グラウンドで練習している他の野球部やサッカー部にも伝染していく。その伝染は体育館や武道館の部活動にも…。練習の様子を見に来た外部指導者や保護者へのあいさつがグラウンドいっぱいに飛び交うシーンは今でも心に焼き付いている。あれだけ悪評だった中学校がみるみる変わっていくのを肌で感じた。「あいさつ」は「生きる力の原点だ」ということ、そして生徒たちのよしたいというパワーを思い知らされた。

与論でいえば「島だちの教育」の根幹。那間小の子どもたちもきっとできるはず。将来へ向けて、本校のガジュマルの大木のように太く大きく成長してくれることを心から願う。



7月

- 7月6日 くじら号
- 7日 校内水泳大会・学級PTA
- 8日 遠泳大会予備日
- 10日 土曜授業
- 11日 B校時(～15日)・着衣水泳
- 19日 B校時・ユンヌフトゥバの日
- 20日 終業式・大掃除・くじら号
- 22日 町小学校水泳記録会
- 23日 親子読書の日(町民読書の日)

8月

- 8月1日 登校日
- 11日 山の日
- 12日～16日 学校閉庁日
- 19日 登校日・全校朝会
- 21日 PTA奉仕作業
- 23日 親子読書の日(町民読書の日)
- 26日 東十条小学校与論3校姉妹盟約40周年記念式典・祝賀会(与論)
- 28日 PTA奉仕作業予備日

